

愛の便り

校訓: 志が人生を創る

雲仙市立愛野中学校 学校便り

令和6年10月15日

通巻 第100号

文責 (校長; 末永栄喜)



お土産以上の思い出 ぎっしり詰まった修学旅行

初日はぐずついた天気でしたが、それ以降は秋晴れにも恵まれた最高の旅行日和でした。体調を大きく崩す生徒も出ず、みんな楽しく過ごすことができました。

ただいまー



到着直前の解団式でも話しましたが、この修学旅行が他の行事と大きく違う点は、2年生だけ(単学年)の行事だということ。そして、大金が必要になるということです。

お土産は食べたらずなくなってしまう。お土産として記念に買ったものは、大事にすれば半永久に残ります。しかし、思い出(見たもの、聞いたこと、感じたこと)そして、この旅行を通して学んだことは、個人の財産として永遠に残るはずです。また、班や学年全体で共有した時間や思い出は、愛野中学校2年生全体の宝物です。これからも大事にしてほしいと思います。お子さんは、家に帰って「ただいま」の言葉に「ありがとう」を添えることができたでしょうか。

学校行事に限らず、学校で行われる教育活動の全てにおいて、目標やめあてがあります。何のためにするのか、その活動を通してどんな力を付けてほしいのか。活動を経て、どんな成長や変容があったのかが大事になってきます。集団・宿泊的行事の中でその最たるものが修学旅行です。

私たち引率にあたった職員も子どもたちの様子を傍らで見ていて、とても頼もしく思えました。普段見せない表情やしぐさ、相手を思いやった行動や声かけ、さりげない支えや励ましなど、集団行動・生活でしか味わえないものがたくさん詰まった旅行でした。この旅行で築き上げたものを礎に、集団としてどんな変容を見せてくれるか、その後はどうつながり、行動で示していくか、その一つ一つが近いうちに世代交代へとつながり、本校のリーダーとなっていくのだと思います。今後の2年生の活躍が楽しみです。



そういえば、修学旅行から帰ってきた翌日、「日本原水爆被害者団体協議会(ヒダンキョー)にノーベル平和賞授与」という朗報が届きました。受賞理由(ノーベル賞委員会)の中には「核兵器の拡散と使用に対する緊急の警告を発することにより、世界中で核兵器に対する幅広い反対運動を生み出し、定着させることに貢献してきた」とあります。

また、翌日の長崎新聞「水や空」に印象的な短文がありました。「(前略)被爆者たちは『許さない』でも『覚えておけ』でもなく、ひたすら『繰り返さないで』と訴え続けてきた。それが世界のどんな場所でも、『ノーモア』は人類の未来に向けた願いだ。だから世界の言葉になった。(後略)」「間に合った。三発目の核のボタンはまだ押されずにいる。」とも書かれています。昨今の世界情勢から、核なき世界に向けた機運を高める狙いがあることは、誰が見ても明らかです。通巻100号発刊にあたり、良いお知らせができました。

長崎県防犯協会連合会から、全国地域安全運動に係る「ポスター・青パト写真・標語」応募作品の審査結果が届きましたのでお知らせします。美術の時間で取り組んだものです。受賞は「標語の部」のみです。

【優秀】

おそれずに 小さな勇氣 ふみだそう

石本 愛織(3年)

あいさつで 笑顔あふれる 地域の輪

山村 かん菜(1年)

暴力団 みんなでいっしょに たちむかおう

窪田 瞬(2年)

つくろうよ 暴力のない 笑顔の社会

宮本 夏帆(2年)

【佳作】

声かけで 支えてくれて ありがとう

福田 ひなた(1年)

パトロール みんなで守ろう ふるさとを

吉田 圭佑(2年)

勇氣をだし 一声かけて 町を守る

小川 日向(1年)

◆第52回 島原半島U-14 バスケットボール新人戦大会 半島新人大会(中体連主催)のシードを決める大会でした。(9月28日)

○男子(1回戦)

愛野中 34対84 国見中 敗退

○女子(1回戦)

愛野・吾妻中 67対21 島原二中 勝利

// 2回戦

愛野・吾妻中 50対93 THS(クラブチーム) 敗退

今年も学校を花いっぱいにするぞぉ〜

今月初旬、今年も花の種蒔きをしました。

美化部の9月の目標に合わせた活動の一環として、その下準備に取り組んだものです。蒔いた種は例年のリビングストーンデージー、サイネリアに加えてパンジー、ビオラ、キンセンカ、そしてナデシコです。



ちょっと欲張りすぎた感はありますが、卒業式や入学式を華やかに飾るために大事に子どもたちと育てていきたいと思っています。

「半年もかかって咲く花」と「半年もかけて咲かせる花」

これから長い間、「気をかけ、目をかけ、水をかけ、そして愛情をかけて育てた花」は、きっと美しいに違いありません。

どの花も芽吹き始めています。もう少し大きくなったら小さなポットに仮植えを繰り返しながら、最終的にはプランターや大きな鉢に移植します。



年度を追うごとに有志の数も増えてきていますので、植え替えはスムーズに行くことでしょう。期待しています。少なくとも、気かけたり目をかけてくれたりしたらうれしいですね。